

# 令和3年度 若者井戸端会議報告書



## 石越コミュニティ運営協議会（石越公民館）

〒989-4703 宮城県登米市石越町南郷字矢作 122-2

TEL 0228-34-2036・FAX 0228-34-3193

HP：<http://ishikoshi.cyokopa.com/04access.html#ishi>

e-mail：[ishikomi35@aj.wakwak.com](mailto:ishikomi35@aj.wakwak.com)

HP QR コード FB QR コード



## 令和3年度 公民館事業（青年交流事業）『若者井戸端会議』開催要項

### 1 経 緯

令和元年度石越地区地域づくり検討会議において、「地域行事への青年層の参加促進」と「青年事業の在り方について」等が提案され、協議した。

その中で、青年のニーズを把握するために、支所（行政）と公民館（石コミ）が協働して、青年層の話し合いの場を持つてはどうかという提案があり、了承された。

### 2 目 的

青年の意識や勤務の多様化・多面化等により青年会組織が崩壊し、**青年層の地域活動への参加低下**が、社会教育の大きな課題となっている。石越地区においても少子高齢化、人口減少が進む中で、今後の地域づくりの担い手である青年層の交流・育成が大きな課題となっている。

これまでも青年交流会の事業を通して、青年層の交流を図ってきたが十分とは言えない状況である。そこで、**青年層の声を聴く機会を設ける**ことが必要と考え、青年層による話し合いの場を作り、自由な討論の中で、本音で地域の課題や地域づくりについて議論することによって、**今後の地域の担い手としての自覚を高め、地域づくりへの提案・実践**につながることを目的とする。

### 3 主 催 石越コミュニティ運営協議会

### 4 内 容

石越地区内の20代から40代の青年男女10名程度で、「地域の課題」や「今後の地域の在り方」等について話し合い、課題解決の政策やアイデアを話し合う場とする。

1年目は、既存事業への参画・協力などが考えられ、次年度以降は提案の事業化等も視野に入れる。

### 5 対 象 石越出身・在住の20代から40代の青年男女10名程度

### 6 実施期日

回	期 日	内 容
1	7月 2日（金）	自己紹介、事業趣旨説明、石越の良い所等の話し合い
2	10月13日（水）	「若者と地域活動」についての話し合い
3	12月15日（水）	今年度のまとめと来年度以降の活動計画について
4	3月16日（水）	報告書作成と次年度計画について

※令和3年6月～令和4年2月までの5回程度を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により臨時休館のため日程を変更。

### 7 会 場 登米市石越公民館等

### 8 その他 事業の実施に当たっては、登米市の地域振興事業との関連から、石越総合支所市民課地域振興係との連携を行うものとする。

# 「若者井戸端会議」の記録

## 第1回（令和3年7月2日（金）午後7時から8時30分 青少年室）

1 参加者16名（青年13名、事務局2名、石越総合支所1名）

2 話し合いの概要

### ①「石越の良いところ、こうなったらいいな」

- 石越駅がある      ○澤乃泉（酒蔵）がある
- 初音がある      ○どんと祭の花火      ○静か
- 鳥舞の思いが強い      ○人がいい人ばかり
- チャチャワールドがある
- 地域密着で横のつながりが強い
- あじさいのイメージが残っている
- 小さな町で人口が少ないこと      ○圃場がある程度整備されている
- イベントには若者が出てくる      ○一つ町に幼・小・中が一つなところ
- パークゴルフ場がある（大きな公園がある）



### ②「石越の課題、不満なところ」

- 子供の減少      ○人口が減っている
- 働く場所が少ない      ○高齢者の増加
- 空き家の増加      ○ドックランがない
- 若い人達が町外へ出ていってしまう
- 食事処・居酒屋が少ない
- 買い物出来る場所が少ない
- 若者とベテランの交流が少ない
- 竹がたくさんあり、障害物になっていたりする
- 少ないが祭り・行事・イベントがある
- イベントへの若者の参加が少ない



### ③「今後、会議で話し合いたいこと」

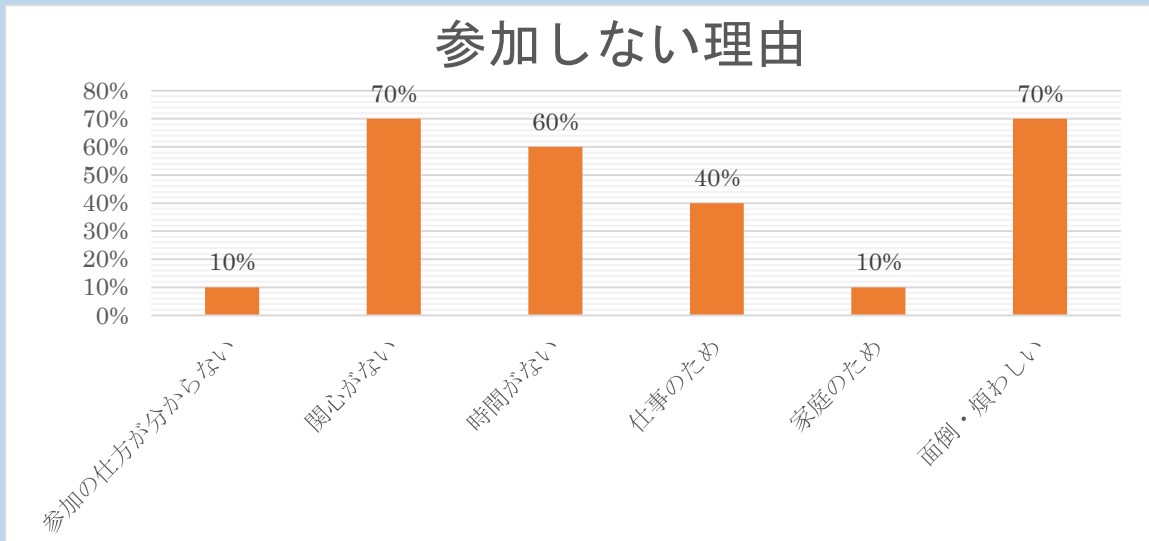
- 集客できるようなイベントを開催
- 町民運動会で子供達と一緒にできる競技
- チャチャワールドの活用（あじさい園等）
- 町独自のイベント（お祭り）
- 若い人たちが遊べる場所を作れないか。
- 竹林の処理で、何か物を作る
- 若者が集まるイベントの計画
- ドックラン等ができるエリアがあってもいい
- 若者が町を盛り上げるには。
- 行事・イベントに参加してもらうためには。



## 『若者と地域活動』に関するアンケート結果

※令和3年7月19日～8月25日調査：10名回答

- 1 若者が地域活動（お祭り・地区行事等）に参加しない理由を、次から三つ選んでください。



- 2 若者が地域活動に参加しやすくなるような『きっかけ』はどうすればよいか。

- 若者が中心となって地域活動を行えば、友人・知人などが集まり輪が広がっていくのでは。
- 楽しそうな雰囲気や誰でも参加していいことを大きくしてチラシ等で伝える。
- 急に地域活動に参加と言ってもハードルが高いと思うので、現在活動している各種団体の裾野を広げ、子供からお年寄りまで、幅広い世代が活動できるようにする。その団体と地域活動を結び付け、きっかけを作る。 ○地域活動に参加している友人・知人からの声掛け
- 日頃から地域の人達が若者とコミュニケーションを取る。
- 口コミ、SNS等。子供から親へ。（学校からの連絡プリントなど）
- 各世代で地域活動の情報を流し知ってもらう。また、意見を集め、取り入れる。

- 3 『若者が集まれる場所』とはどんな場所か。

- 楽しい、興味がある所。子連れでも行ける所。
- 気を遣わず集まれる場所。共通の趣味（スポーツ、ダンス、eスポーツ、キャンプ、釣り、BBQ等）があると集まりやすくなるような気がします。
- どんと祭や町民運動会、まるごといしこしまつりのような一部の地区だけではなく、全地区の方が参加するようなイベント。
- 流行にちなんだ内容を盛り込んだ空間（マルシェ等、産地プロモーション）
- 若者が作った空間（イベント等）。子供、動物とゆったり遊べる公園的なスペース。

- 4 若者と地域との『接点』を作るには、どうしたらよいか。

- 若者中心として行事等の企画をし、手伝いやアドバイスを地域の方にいただいて、接点を作っていければいいのかなと思います。
- 地区の活動など、子ども会などだけでなく、中・高・20代が参加できるような活動を取り入れたりする。（自分が住んでいる地区巡りなど）
- 小・中学校のころから地域のイベントに参加するような取り組みを継続して行う。  
（現在の町民運動会での鳥舞、小中の吹奏楽部の演奏、まるごといしこしまつりでの芸能祭における中学生の発表など） ○各種団体を通して接点を作る。

## 5 若者の社会活動によって『もたらされる効果（有用性）』とは何か。

- 今の高齢者の方々のように、ボランティア等の助け合いを若者が歳を重ねていった時でもできるのではないかと思う。
- 地域住民（高齢者、関わりを持っていない世代）との交流が深まり、行事・災害時など、いつでも顔見知りの関係で協力できる。（団結）
- 若者が何かをしている姿を見て、周りの同世代や年輩の方にも刺激を与え、地域の活性化につながる。
- イベントや各種計画がある一定の年代の考え方に偏らず、斬新なアイデアなどが出される可能性がある。ただし、少数意見になり、なかなか生かされないおそれもある。

## 第2回（令和3年10月13日（水）午後7時から8時40分 青少年室）

1 参加者11名（青年8名、事務局2名、石越総合支所1名）

### 2 話し合いの概要

#### ①「若者が地域活動に参加しない理由」

- 地域との関わりが面倒 ○仕事が忙しい
- 気を遣いたくない、人と話すのが嫌。
- 参加したいと思うイベントがない
- 参加の仕方が分からない ○同年代の参加者がいない
- どんな活動なのか詳しくわからない
- 関心・興味がなく、魅力を感じない ○コミュニケーションをとるのが苦手、面倒
- 個人での参加は恥ずかしいと思っている ○年上の年代との交流が面倒だから



#### ②「参加するための方策」

- 興味を持たせる、他人事でなく、自分事に思わせる、参加することのメリットを準備
- 親子で参加できる活動を考える ○活動の宣伝方法
- 興味のあるような活動を取り入れる ○いろいろな人に話して広める
- 楽しそうな雰囲気を伝える（チラシ、ポスター、ネット）
- 気軽に参加できることをアピール ○地域活動に参加している若者が同年代の人に声掛け
- 地域活動に興味・関心を持ってもらうため、行事の計画など、若者に参加してもらう
- 若者に何か行事をしてもらう。その行事に対して上の世代は批判したり、鼻から否定しない
- オシャレな空間・スペースを作る（BGM等）
- 若者だけの活動を増やし、地域活動につなげる ○告知（情報、SNS、口コミ）の工夫

#### ③「参加する効果（メリット）」

- 地域の活性化、人脈が広がる
- 町内の住民と交流ができ、行事等を団結していける。活気のある町
- 地域の人との関わりが増え、（災害など）何かの際に助けってもらえる
- 地域にいる同年代や異なる年代の人を認識し、交流やつながりのきっかけとなる
- 顔見知りになることで、災害などの有事の際に協力体制が強いものになる
- 継続しないと大きな効果は見込めない
- ツイッターとかインスタで広まるかも ○地域について再認識できる
- 世代がつながり、活動が継続できる ○活動以外でも挨拶など増える
- 地域活性化。若者参加 → 活気 ○地域としての宣伝

### 第3回（令和3年12月15日（水）午後7時から8時40分 青少年室）

1 参加者11名（青年8名、事務局2名、石越総合支所1名）

2 話し合いの概要

①「令和3年度若者井戸端会議報告書」

（素案を基に検討）

②「令和4年度活動計画」

- 仲間は、LINE や SNS で声を掛けて集める。
- 地区内の青年との交流は、来年度に一つでもやってみたい。
- ハローウィンでのお菓子を配るなどの話題も出た。
- 公民館を使って行事に参加する。協力する。（まるごといしこしまつり等）
- 「町おこし語録」を募集する。
- 石越光のページェントでお菓子をプレゼントする。



### 第4回（令和4年3月16日（水）午後7時から8時15分 青少年室）

1 参加者9名（青年7名、事務局2名）

2 話し合いの概要

①「令和3年度若者井戸端会議報告書」

（前回の話し合いを踏まえた案を検討）

②「令和4年度活動計画」

- 夏の時期のイベントがないので、夏祭りや盆踊りができないか。
- 石越駅の活性化（→無人化を防ぐため）
- ベテラン（高齢者）パークゴルファー（又はグラウンドゴルファー）と若者チームの対戦。
- 既成事業へ若者が参加しやすくする改革。

### 参加者名簿

（50音順：敬称略）

No	氏名	活動・所属団体等	備考
1	阿部 光太郎	石越地区体協副会長・農協青年部副部長	
2	小野寺 研人	登米市社会福祉協議会	
3	小野寺 央智	消防団員	
4	熊谷 幸恵	いしこし ENJOY クラブ	
5	後藤 智大	商工会青年部・スポーツ推進委員	
6	後藤 春香	ママさんバレーボールチーム代表	
7	佐々木 千春	保育士・スポーツ推進委員	
8	佐藤 辰哉	農協青年部副部長	
9	佐藤 瑞希	保育士	
10	高橋 紘	学芸員	
11	千葉 恭輔	保育士	
12	二階堂 悟	石越郷土史研究会	
13	二階堂 怜	石越小学校 PTA 会長	

令和4年3月31日発行